

事業名:	ウィズコロナ地域活動再開計画
資金分配団体:	特定非営利活動法人 A C O B A
実行団体数:	5団体
実施時期:	2020年3月～2021年3月
事業対象地域:	千葉県
事業対象者:	コロナ禍での様々な困難を抱えた地域住民

進捗報告/事後評価に向けた評価計画

I. 実施状況の分析

リスク要因の把握と対処：事業実施上想定されるリスク要因 (組織外、組織内)	状況の把握方法	想定する対応方法
<ul style="list-style-type: none"> 事業実施の最中にコロナ等による社会情勢の変化によって、対面かつ集合的な機会の創出が難しくなるリスク ステークホルダーになりうる組織の運営体制等の変化によるオンライン等の活用に対する制限がかかるリスク 	<ul style="list-style-type: none"> 最低毎月1回実施する実行団体への伴走支援を通して、各団体のおかれている状況をヒアリングし、状況の把握を行う。 実行団体同士の活動をシェアしあうためのSNSグループを開設する。また中間報告を経て、各団体の事業の実施状況などを報告・共有する公開フォーラムを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的なオンライン活用やソーシャルディスタンスを保った状態での事業実施を行うことでの社会情勢によらない事業構築の支援 各団体の持つノウハウを横展開する機会を創出し、新たな打開策の発案や創発を起こしやすくする

II. 見直し後*の事業実施で達成される状態（アウトプット） 及び アウトプット指標（実施・到達状況の目安とする指標）/把握方法/目標値/達成時期

今回の事業実施を通じた目標	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
実行団体の事業実施にかかる目標 ①オンライン等やコロナ禍におけるニューノーマルを意識した新たな場が創出されている ②本事業を通じた事業対象地域に住む住民や、事業対象利用者によりサービスが届いている 資金分配団体としての事業実施にかかる目標 ①資金分配団体として、選定された実行団体の事業推進が計画通りに進行する状態 ②実行団体のアウトプットが目標通りに進行し、アウトカムを生むことが出来る状態	①-1 子ども食堂活動団体数 ①-2 「子ども・若者オフィス」の実際の開設 ②-1 就労準備のトレーニング施設利用者数 ②-2 障がい児のための運動動画配信回数と延べ視聴回数 ②-3 コミュニティプレイス「ごちゃにわ」の延べ利用者数、延べ利用世帯数、来訪者の居住エリアを集計する ①毎月の事業進捗確認数 ②事業終了後の各実行団体事業達成率	①-1 団体の立上げ数、あるいは既存の団体の意思表示数 ①-2 実際のオフィス開設実績 ②-1 施設利用者数のカウント（申込書受領） ②-2 LINE連絡網での配信、スマイルクラブの公式YouTube ②-3 高野山小学校児童にチラシを配布。また、高野山学区内にある幼稚園、我孫子市内の保育園にポスターを掲示し、事業を周知する。利用ごとにチケットや回数券を発行して利用者数を把握する。 ①月1回の進捗共有及び事業実施にかかる相談対応数 ②各団体の設定したアウトプットの達成率	①-1 最低2団体、最大でも5団体 ①-2 Trist Airport（サテライトオフィス）に実際に「子ども・若者オフィス」を併設 ②-1 のべ50人に就労準備トレーニングを実施 ②-2 LINE連絡網（700人）配信（6回）、YouTube動画の視聴回数延べ1000人 ②-3 市内でも特に「ごちゃにわ」設置予定の高野山学区内1664世帯のうち子育て世帯約500世帯（高野山小学校在籍世帯数）の70%が「ごちゃにわ」の存在を知っており、さらに40%の世帯が活用したことがある②我孫子市内の子育て世帯30世帯が、毎月3-4回、継続してこの場所を利用する。 ①12か月×5団体=60回 ②全アウトプット達成率90%以上	2022/2/1

*実行団体の事業計画等から見直した結果

III. 見直し後*の事業実施後（1年後）以降に目標とする状態 及び 目安とする指標（※指標については設定可能であれば、で構いません）

事業実施後（1年後）以降に目標とする状態	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	実施時期
<ul style="list-style-type: none"> 各団体が構築した事業が助成終了後も継続していけるための運営体制が構築されている もしくは事業実施後にその後の事業展開において、より多くのターゲットに団体事業を提供していける基盤体制が整っている 			

*実行団体の事業計画等から見直した結果